

南葵音楽文庫寄託記念

読売日本交響楽団 ニューイヤー・コンサート

華麗なる《新世界》

ベートーヴェン／「エグモント」序曲

ラヴェル／ピアノ協奏曲 ト長調

ドヴォルザーク／交響曲第9番「新世界から」



日本の音楽界をリードする名匠

指揮:大友直人

Naoto Otomo

©Rowland Kirishima

国際的に活躍する俊英

ピアノ:福間洸太郎

Kotaro Fukuma

©Shuga Chiba

新年を祝う絢爛豪華なコンサート
躍動するリズムと迫力のサウンドで会場を感動へと誘う!

2026
1/6
開演 午後7時00分
開場 午後6時30分
(火)

和歌山県民文化会館 大ホール
S席5,000円 A席3,500円



全席指定

※未就学児入場不可

チケット
発売日

けんぶん友の会先行電話予約 7月14日(月)10時～
一般販売(プレイガイド) 7月22日(火)10時～

【プレイガイド】

- 和歌山県民文化会館 073-436-1331
- ローソンチケット Lコード: 52598



一時保育(有料)希望者は、公演8日前までに
お申し込みください。

※和歌山県民文化会館でご予約いただいたチケットは、
次の施設でお引き取りできます。

- 粉河ふるさとセンター 0736-73-3312
- かつらぎ総合文化会館 0736-22-0303
- 県立橋本体育館 0736-32-9660
- 御坊市文化会館 0738-23-4881
- 紀南文化会館 0739-25-3033

<主催>

和歌山県／

一般財団法人和歌山県文化振興財団(Wacaf)

<予約・問合せ>

和歌山県民文化会館 TEL.073-436-1331

※都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。



なん き おん がく ぶん こ 南葵音楽文庫とは

南葵音楽文庫は、徳川頼倫侯爵（紀州徳川家第15代当主1872-1925）が設立した私設の図書館である南葵文庫の音楽部門に端を発しています。関東大震災（1923）の直後、侯爵は南葵文庫を、その音楽部門をのぞいて東京帝国大学に寄贈しました。

頼倫の息子徳川頼貞（1892-1954）は、音楽部門を承継するとともに蒐集を大幅に拡大し、音楽および音楽学の専門図書館にむけ拡充しました。

南葵音楽文庫は、歴史的にも価値がある3つのコレクションを入手しています。ウィリアム・ヘイマン・カミングスの有名な音楽文庫の主要部分、ドイツの音楽学者マックス・フリートレンダー所蔵の貴重書や音楽雑誌、そして高名なチェロ奏者ジョゼフ・ホルマンが遺したすべての楽譜です。結果として、1929年には所蔵数は30,000冊と記録されています。

南葵音楽文庫は、財務危機のため1932年にすべての活動を中止しました。音楽家はもとよりほぼすべての日本人は、第2次大戦下の政治、社会、軍事的困難のなかで、この豊かなコレクションには思いが及びませんでした。

長い間行方が判りませんでしたが、1967年になってコレクションは再び人々の前に姿を現しました。1977年以降、南葵音楽文庫は読売日本交響楽団が所蔵しています。

この素晴らしいコレクションは、和歌山県と読売日本交響楽団との寄託契約により、2017年、紀州徳川家ゆかりの地である和歌山で一般公開のはこびとなりました。

南葵音楽文庫ホームページ「南葵音楽文庫の歴史」より



南葵音楽文庫
WEBサイト

徳川頼貞（とくがわ よりさだ）

音楽学者、政治家。紀州徳川家の第16代当主。ケンブリッジで音楽学を学んだ後、彼はみずからの資産を音楽の振興に投じた。1925年以降貴族院の議員に、1947年には最初の参議院議員選挙で当選。外務委員長、ユネスコ国会議員連盟の会長として尽力しました。

読響ニューイヤー・コンサート 華麗なる《新世界》

Profile



指揮 大友 直人 Naoto Otomo

日本のクラシック音楽界をリードし続けている名匠。桐朋学園大学卒業。指揮を小澤征爾、森正、秋山和慶、尾高忠明、岡部守弘各氏に師事。2004年から12年まで東京文化会館の初代音楽監督を務め東京音楽コンクールの基盤を築いたほか、海外オーケストラからも度々客演として招かれ、ハワイ響においては20年以上にわたり定期的に招かれている。現在、東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団音楽監督、高崎芸術劇場芸術監督、瀬戸フィルハーモニー交響楽団ミュージックアドバイザー。教育活動にも力を注ぎ、国際音楽セミナー「ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン」を米国の指揮者アラン・ギルバートとともに開催するなど活発な活動を行っている。大阪芸術大学教授、東邦音楽大学特任教授。京都市立芸術大学、洗足学園大学各客員教授。第8回渡邊暁雄音楽基金賞、第7回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。



ピアノ 福間 洸太郎 Kotaro Fukuma

2003年20歳でクリーヴランド国際コンクール日本人初の優勝およびショパン賞受賞以来、世界各国からの招聘が後を絶たず、現在最も多忙なピアニストの一人。これまでにカーネギーホール、リンカーンセンター、サントリーホールなどでのリサイタルの他、クリーヴランド管、イスラエル・フィル、NHK交響楽団など著名オーケストラと多数共演。CDは多数録音しており、23年にリリースの「幻想を求めて - スクリャービン&ラフマニノフ」(ナクソス)は欧州のInternational Classical Music Awardsにノミネートされた。24年通算20作目のCD「ショパンの想い出」(ナクソス)を日欧同時発売。多彩なレパートリーと表現力、コンセプトチュアルなプログラム、また5か国語を操り国内外で活躍中。第39回日本ショパン協会賞、24年スペインのアルベニス・メダルを受賞。昨年は日本デビュー20周年を迎え、全国10か所での記念リサイタルツアーを行い、各地で好評を博し、高い評価を得た。

管弦楽 読売日本交響楽団 Yomiuri Nippon Symphony Orchestra

1962年、クラシック音楽の振興と普及のために読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビのグループ3社を母体に設立。創立以来、世界的な指揮者、ソリストと共演を重ねている。現在、ドイツの名匠ヴァイグレが常任指揮者を務め、東京のサントリーホールや東京芸術劇場などで演奏会を多数開催。2017年サントリー音楽賞などを受賞。22年文化庁芸術祭大賞を、24年三菱UFJ信託音楽賞奨励賞を受賞。演奏会などの模様はBS日テレ「読響 粗品と絶品クラシック」などで放送中。16年に所有している南葵音楽文庫を和歌山県へ寄託して以来、17年から同県での演奏会に出演し、今回で5度目の登場となる。